MURAOKA タイヤチェーン

取扱説明書

一般社団法人日本建設機械施工協会加盟

当社製品をお買上げいただき、ありがとうございます。

チェーン装着前に必ずお読みください。タイヤチェーンは消耗品です。

正しい装着により安全走行の確保ができ、また寿命にも大きく影響します。この取扱説明書は、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の正しい取扱い方を示していますので、将来いつでも使えるように大切に保管してください。この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく装着し、慎重に運転して下さい。

※製品の間違った取扱いや取り付け方等に起因する傷害や損害については責任を負いかねます。

購入時によくお確かめ下さい。

※購入後に必ず試着および取付練習をし、確認してください。

①冬用タイヤの中には、銘柄・パターン等によってチェーンの装着が困難なものがあります。
②車種またはタイヤの種類によって、タイヤと車体の間隔の少ないものがあります。この場合、チェーンを装着すると走行中に車体に接触する恐れがありますので、絶対に使用しないでください。
③冬用タイヤや使用ホイールによっては、適用タイヤサイズよりも大きめなチェーンが必要となる場合があります。
④タイヤサイズの表示が同じでも、スペアタイヤ・更生タイヤには適用サイズに記載されているタイヤチェーンでは装着できないものがあります。
⑤タイヤサイズの表示が同じでも、車両重量によって適切な線径(チェーンの太さ)があります。タイヤチェーンを選ぶときには、必ず車両の質量に合った線径をお選びください。

⚠ 警告

誤った取扱いをすると人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

①タイヤのサイズに適用しないタイヤチェーンは絶対に使用しないでください。
車体に接触し、チェーン本体の破損、車両の損傷、チェーン脱落の恐れがあり危険です。また、連結の不備、ゆるみが発生し、事故の原因となります。必ず装着するタイヤサイズを確認し、容器またはカタログに記載されている適用サイズと合っているか確認してください。

②タイヤチェーンを本来の目的(タイヤの滑り止め)以外に絶対に使用しないでください。
他の目的(牽引、つり下げ等々)に使用すると切断し、事故の原因となります。

③タイヤチェーンを改造しないでください。ゆるみ、切断が発生し事故の原因となります。

④片輪のみの装着や異種のチェーンの併用はやめてください。
ブレーキの片効き、操縦安定性の低下の原因となり危険です。必ず左右同一のチェーンを駆動輪に装着してください。

⑤チェーンの着脱・点検は必ず指定された場所か、交通の妨げにならない広い平地で行ってください。
路上でのチェーンの着脱・点検は他の交通を事故に巻き込む恐れがありますので、絶対にしないでください。また、坂路でのチェーンの着脱・点検は車両が傾き、危険ですから絶対にしないでください。

⑥走行中に異常な音なり、振動、衝撃などを感じたときは、速やかに自動車を安全な場所に止め、ゆるみ、切断の有無を確かめてください。そのまま走行すると、チェーンの切断や車両の損傷など事故の原因となります。

⑦クロスチェーン(路面に接触しているリンク)が線径の1/3以上擦り減った(使用限度)ときは、使用をやめてください。
そのまま使用しますと切断し、車体の損傷や事故の原因となります。

⑧タイヤチェーンを装着しているときは、30km/h以下で走行してください。(高速道路も同じです。)
30km/hを超えて走行しますとハンドルを取られたり、制動が利かなくなったり、ゆるみが発生したりして、事故の原因となります。また、チェーンに大きな負荷がかかることで切断し、車両を損傷する恐れがありますので絶対にしないでください。

⑨タイヤチェーンを装着しているときは、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなどは危険ですからやめてください。
駆動輪の空回り、制動不能、横滑り、ハンドル操作不能、チェーンの切断などが発生し事故の原因になります。

⑩必ずスペアのタイヤチェーンを携行してください。
タイヤチェーンは消耗品ですので、走行中に使用限度となることがあります。使用限度となったタイヤチェーンを交換するために、常にスペアのタイヤチェーンを携行してください。

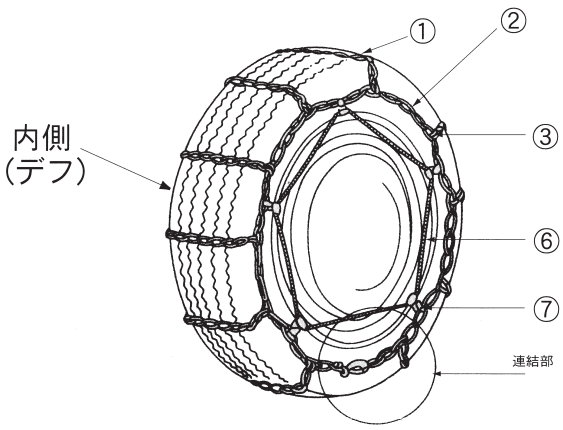
⚠ 注意

誤った取扱いをすると人が傷害を負ったり物的損害の発生が想定される内容を示しています。

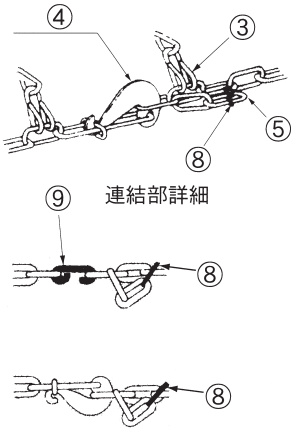
①取扱いには、必ず手袋をご用意ください。自動車の**フェンダー**への接触、タイヤチェーンの連結時の手の滑りなどで、思わぬ傷害の原因となります。
②タイヤチェーンを装着して走行すると、**ホイール**、**ホイールキャップ**、**タイヤ**等をキズつける場合があります。
③装着後、余ったサイドリンクは必ず切り取るか添付の針金で固定してください。余ったサイドリンクをそのまま放置しますと、自動車の**フェンダー**、**ホイール**などを損傷する原因となります。
④チェーン装着後、必ず50m以上試走してから装着点検をし、異常がないことを確認してください。装着不良により異常な音なりがする場合は直ちに安全な場所に車を止め、正しく装着しなおしてください。また、チェーンバンドやサイドチェーンの引っ張りが弱くなっている場合は、サイドチェーンを正しく締めなおしてください。
⑤装着後、タイヤチェーンがゆるんでいたり、左右に片寄っていますと、走行中コネクタが接地したりタイヤで踏んだりし、早期折損や変形したりして外れ、自動車の**フェンダー**、**ホイール**、**タイヤ**などを損傷する原因となりますので、ゆるみ、片寄りなく均等にかかるように必ず装着し直してください。
⑥立ち往生した時は、むやみに高速連続空転させないでください。チェーンが切断し、車両をキズつけることがあります。
⑦雪や凍結のない道路では、タイヤチェーンを装着したままの連続走行はしないでください。乾燥路等での走行は、チェーンの磨耗が早くなり、チェーンの切断の原因となります。
⑧タイヤチェーンには必ずチェーンバンド等の緩み止めを使用してください。チェーンバンドを付けないで走行すると、チェーンが遠心力で膨らみ、車体(フェンダー等)に当たり損傷することがあります。
⑨タイヤチェーンを正しく装着されませんと偏磨耗によりチェーンが切断したり、コネクタが変形したりして外れ、自動車の**フェンダー**、**ホイール**、**タイヤ**などを損傷する原因となりますので、正しく装着してください。
⑩タイヤチェーン装着後は縁石や障害物に接触しないように注意して走行して下さい。**タイヤチェーンの切断や破損**の原因となります。

※文章中の〔警告〕〔注意〕は１ページを参照してください。

1. チェーンの正しい装着図と各部の名称



正しい装着図



各部の名称

①クロスチェーン
②サイドチェーン
③コネクタ
④板フック
⑤調整リンク
⑥チェーンバンド
⑦バンドフック
⑧針金等
⑨カギ形線フック

2. 装着する前には

※チェーンはタイヤサイズにあったものをご使用ください。

①同タイヤサイズであってもタイヤメーカー・形状・銘柄(冬用タイヤなど)によって、大きさが異なっている場合があります。
購入後に必ず装着を試みてください。〔警告①〕
なお、装着は『３.装着するときは』の手順に従って取り付けてください。
②チェーンを装着する場所や周囲の安全を確認しましょう。**〔警告⑤〕**
(他の走行車や路面の傾斜度などに注意しましょう。)
③チェーンを扱いやすくし、手を保護するために、必ず軍手や手袋などを使用してください。**〔注意①〕**
④チェーン装着以外のタイヤには、必ず車輪止めをしましょう。
⑤低クリアランスの車両はチェーンが車体に接触し傷付けるため、使用できません。
⑥チェーンは車両の「取扱書」でご確認のうえ、必ず駆動輪に装着してください。非駆動輪に装着しても効果が出ず、危険です。また、片輪のみの装着や異種のチェーンの併用は危険ですのでやめてください。**〔警告④〕**

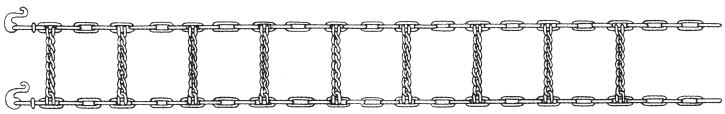
3. 装着するときは

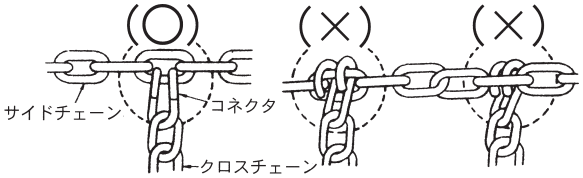
※チェーンは駆動輪に装着してください。

□ジャッキアップして取り付ける方法(参考)

1. チェーンのネジレの確認

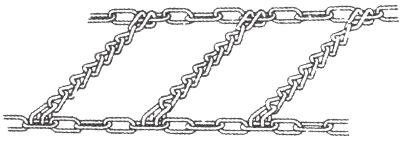
まず、チェーンを広げてみてください。このとき、ねじれ・くぐりがないかどうか、必ず確認し、修正してください。



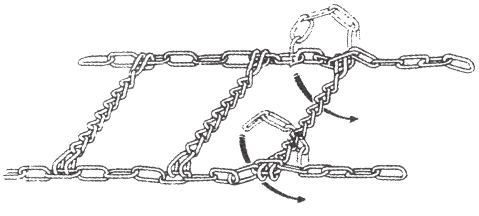


●ねじれた状態のときは、矢印のように通しますと正常な形になります。

正常な状態



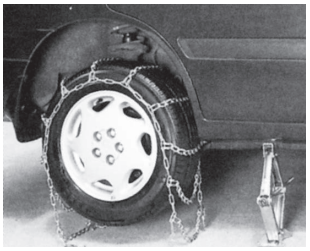
ねじれた状態

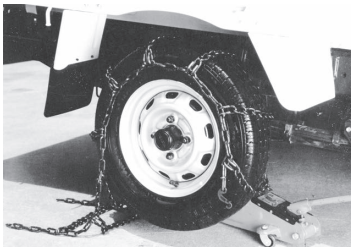


(注意)ねじれたまま装着し走行しますと、チェーンの早期折損の原因となります。

2. タイヤチェーンの取り付け

①他のタイヤに車止めをしてから、装着するタイヤをジャッキで浮かせます。



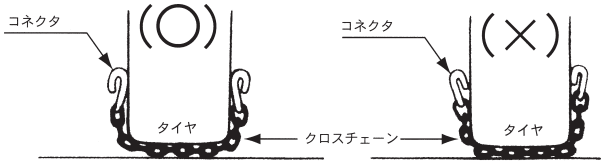


〔注意〕
ジャッキの使い方については、車両の「取扱書」を確認の上、ご使用ください。

②カギ形線フックが必ずタイヤの内側(フェンダーの奥)になるようにし、クロスチェーンがタイヤに均等にかぶさるように(写真参考)、チェーンをかぶせてください。

(注意) 6×7サイズ(主にトラック)以上のタイヤチェーンの取付金具は両端(内・外)とも板フックです。

※コネクタの向きが下図の様になるように必ず確認してください。
コネクタの向きを逆にして装着しますとタイヤを傷付けたり、パンクの原因になりますので、必ず正しく装着してください。また、コネクタが路面に接触すると破損しますので、必ず路面に当たらないことを確認してください。

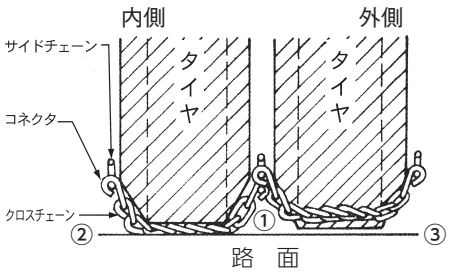


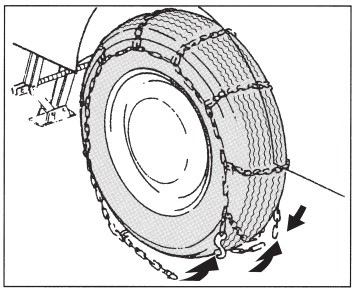
路面側　　路面側

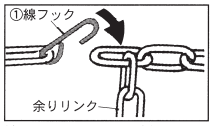
■ダブルタイヤ用トリプル形タイヤチェーンの場合。

取付順序
①中央のサイドチェーン
②タイヤの内側のサイドチェーン
③タイヤの外側のサイドチェーン

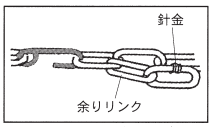
取付状態



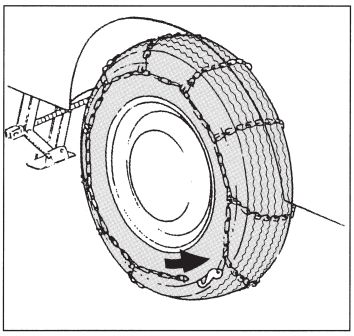


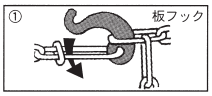


線フックをリンクに引掛けます。

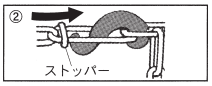


余りのリンクを針金でしばります。

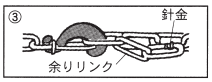




リンクを板フックに掛けます。



ストッパーを移動し板フックを固定します。

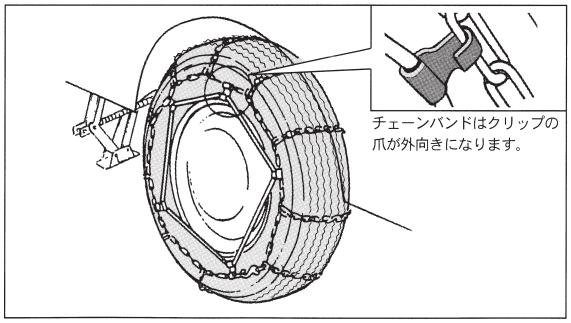


余りのリンクを針金でしばります。

③内側のカギ形線フック(板フック)から先に連結します。
サイドチェーンの余りコマが内側と外側が同数か、内側が1コマ少なくなるように調整し、内側のサイドチェーンとフックを連結します。

④余ったサイドリンクは必ず切り取るか、針金等でしっかりと縛り固定してください。**〔注意③〕**
(注意) 冬用タイヤにも装着できるように、サイドリンクが長くなっているものがあります(トラック用)。必ず、余ったリンクは取り除くか針金で固定してください。

⑤外側のサイドチェーンをタイヤに均等にかぶせ、最も張られた位置で連結します。余ったリンクは④と同様に必ず切り取るか固定してください。**〔注意③〕**



⑥バンドフックが等間隔となるようにチェーンバンドを取り付けます。このとき、バンドフックの爪が外向きになる様にします。
内向きになるとタイヤの表面が傷付くことがあります。
必ずチェーンバンドをご使用ください。**〔注意⑧〕**
チェーンバンドは当社指定のものをご使用ください。
※チェーンバンドのサイズによりフックの数が異なります。

3. 取り付け状態の確認

①チェーンが緩くないか確認する。チェーンバンドがサイドチェーンを引きつけ、正しく張られていることを確認してください。緩い場合には、必ずサイドチェーンを締めなおしてください。

②チェーンがタイヤに対して片寄りなく均等にかかっていることを確認してください。片寄っている場合には、必ず均等になるようにかけなおしてください。

4. 装着後の走行は

チェーン装着時の走行速度は最高30km/hです。(高速道路も同じです。)

- 必ずチェーン装着後、**50m以上試走してから装着状態を点検**してください。チェーンがタイヤになじみゆるみが出て来ます。**ゆるみ、片寄り、フェンダーへの当たり、ホイールへの当たり**などを確認し、修正と増し締めをしてください。
- 急発進、急加速、急ハンドル、急ブレーキは危険ですから絶対にやめてください。**〔警告⑨〕**
- 長距離を走る場合は特に、途中で定期点検をしましょう。(特にラジアルタイヤはサイドウォール部が柔らかいため傷つきやすくバーストの危険もありますので、こまめな点検が必要です。)
- クロスチェーンの磨耗が１ヶ所でも**線径の1/3擦り減ったときが使用限度**です。そのまま走行しますと切断し、事故や車体を損傷する恐れがあります。定期的に点検してください。なお、走行中に使用限度となることがありますので、必ずスペアのタイヤチェーンを携行してください。**〔警告⑤〕〔警告⑩〕**

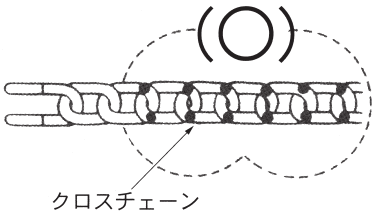
〈磨耗量が線径の約1/3になれば使用限度〉

こんなとき、チェーンは激しく磨耗してしまいます。

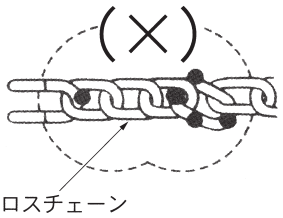
- 正しく装着されていない場合。
- 高速走行(30km/h超)・急発進・急加速・急ハンドル・急ブレーキをした場合。**〔警告⑨〕**
- 装着したまま、雪路・凍結路・ぬかるみ以外を走行した場合。**〔注意⑦〕**

チェーンの磨耗状態

◎正しく装着した場合は、クロスチェーンの下図の●印の部分が平均して磨耗します。



◎正しく装着されなかった場合は、下図の●印のように偏って磨耗します。



5. チェーンを取り外すときは

取り外しの際には、ジャッキアップの必要はありません。次の手順に従って取り外しを行ってください。
①フックがタイヤの後方になるように車を止めます。(フックがタイヤの下になると外しにくくなります。)
②チェーンバンドを外します。
③外側板フックを外します。
④外側のサイドチェーンを両側に広げて、内側のサイドチェーンをゆるめます。
〔注意〕外側のサイドチェーンを内側に落さないようにしてください。
⑤内側のカギ形線フック(板フック)を外します。
⑥内側のサイドチェーンを外側に引き出し、車両を移動すれば取り外し作業は完了します。

6. 装着走行の後は

- クロスチェーンの磨耗が線径の1/3擦り減ったときが使用限度です。早めに新しいものと交換しておきましょう。
- 装着走行後は必ず点検し、交換が必要な部品は早めに手配して交換しておきましょう。
- 長期間使用しないときは水洗後乾燥させ、防錆油などを塗布して保管してください。

品質には万全を期していますが、万一製造上の原因による品質不良が明らかな場合は、程度に応じて新しい製品と交換するか、不良箇所の部品を供給致しますので、お手数でも下記までご連絡ください。

【製品に関するお問い合わせは】
MURAOKA ◆村岡電器産業株式会社　営業部　TEL 03-3626-3201
〔本社〕東京都墨田区業平一丁目２番６号　FAX 03-3623-1774